

# 山麓探偵団通信

10月号

秋のお彼岸がすぎ、秋風がひんやり吹くきょうこのごろ、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

九月の探偵団は、なるさわ道の駅に集合して、久しぶりに野尻草原を案内していただきました。大型台風直後の山麓でしたが、白タマゴタケ、鹿の頭骨、ワレモコウ、フーロ、ススキ、山ブドウ、マツムシソウ、熊の糞、テンの糞、ヤマラッキョ（発見順）などに足を止めながら、久々の森遊びを楽しみました。

## ▼参加者の感想文

山麓探偵団に初参加しました。天気が心配でしたが、当日は台風が過ぎ去り、素晴らしい天候に恵まれました。

高速道路から美しい富士山も見てワクワクしていたら、なんと高速道路で渋滞に巻き込まれてしまいました。

なんとか現地に到着した時には山麓探偵団の方々はすでにお昼の準備をされていて、その時ふるまってくださったお味噌汁に入っていた忍野豆腐はとても美味しく、ホッとする味でした。

団員の方々は皆さん気さくで明るい方たちばかりで、オヤジギャグが炸裂して方もいました(笑) そんな楽しい雰囲気の中、草原に生えてる植物や木々、樹海について教えてくださり、初めて知ることがたくさんありました。サルナシや山葡萄、山椒などの山の実りを堪能する事も出来、貴重な体験となりました。



洞窟探検



←白タマゴタケ

今回、山麓探偵団の方々のお蔭で普段行く事のない所へ連れて行ってもらい、さらに自然の楽しみ方を教えて頂けて、とても充実した時間を過ごす事ができました。ぜひ、また参加したいと思えます。(M・M)

## ▼特別寄稿

(今月は、自然細密画家の木村奈保子さんに、随想をお願いしました。)

### 祈り

天と地の間にあってうごめく命、大いなるものが フーツと息を吐

けば、スーッと消えてしまう命形ある物は、全て消えてなくなる残るのは思い出、面影、そして魂しい  
その魂しいにふれ会いたくて人は皆祈るんだね  
もう一度会いたいって・・・

天と地の間にいることに やつと気がついた  
生きていることに敏感になったみたいだね  
大いなるもの  
悲しい思いをさせる所でもあるけれど、やさしく包みこんでくれる場所でもある  
生まれてきた所でもあるけれど還る所でもある  
生も死も全て受け入れてくれる大いなる寛容  
そんな大きな懐の中で 生かされているんだね  
今生きている物も そうでない物も  
全ての魂しいが 安らかであることを 祈ろう



祈り

< 木村奈保子：画と文 >

## ■十月の探偵団活動ご案内 秋の宝永火口と宝永山へ

「天高く馬肥ゆる秋」といいますが、秋の一日、天高く宝永火口と宝永山を目指して一緒に楽しみませんか？  
団長は、伊藤浩美カメラマンです。

・十月二十日(木) 二十二日(土)  
集合 朝9時

山中湖畔旭日丘セブンイレブン隣の駐車場

・参加費 2300円

・持ち物 昼食・雨具・マイカッ

プ・防寒着・足元のしっかりした履物・双眼鏡など

○ 参加申し込み・問い合わせは三日前までに、電話かメールでお願いします。

尚、十一月は、自然細密画家の木村修さんを団長に、「富士山を描いてみよう！」というテーマで活動します。

活動日は、十一月十七日(木)と二十六日(土)の予定です。

発行 山麓探偵団 事務局

山梨県山中湖村平野一六九八

電話 〇五五五・六五・七〇二三